

令和6年 3 月 31 日

令和5年度 学生自主研究成果報告書

教 育 本 部 長 様

学生自主研究グループ名	土崎をにぎやかにし隊	
研究課題名	地域資源を活用した土崎港中央通り商店街の活性化に向けた調査と提案	
研究代表者（学生）	学籍番号	B24C033
	氏 名	中村 優希
指導教員	学 科	建築環境システム学科
	氏 名	李 雪

学生自主研究の報告書を別紙のとおり提出します。

地域資源を活用した土崎港中央通り商店街の活性化に向けた調査と提案

システム科学技術学部 建築環境システム学科

2年 中村 優希

村井 宣輝

指導教員 システム科学技術学部 建築環境システム学科

助教 李 雪

教授 山口 邦雄

1. はじめに

1-1 研究の背景・目的

日本では、人口減少及び少子高齢化が進む中、地方都市に限らず、商店街では経営者の高齢化による後継問題や集客力の低下、店舗およびアーケードの老朽化等の問題を抱えている。さらに、郊外への大規模ショッピングセンターの出店によって商店街が立地する中心市街地の活気が失いつつある。

その一方、商店街は昔から地域コミュニティを形成する「場」として存在しており、この間、中心市街地活性化の一環として商店街を対象にした活性化事業がよくみられる。そこで、本自主研究では、300年以上の歴史を持つ秋田県を代表するまつりの土崎港曳山まつりの伝統を有する土崎地域の商店街、土崎港中央通り商店街を対象にし、地域資源を活かした商店街の活性化の手法を提案する。

1-2 土崎港中央通り商店街の概要と現状

約40年前の土崎港中央通り商店街は写真1のようになっていた。当時は多くの看板があり、多くのお店がやっている活気あふれる雰囲気が感じられる。また、人や車の交通も多くにぎやかな雰囲気がある。しかし現在、毎年曳山祭りの際に大きな盛り上がりを見せているが、祭り以外の時の土崎港中央通り商店街は写真2のようになっており、人通りがほとんどなく、看板が見えるお店は数えるほどしかない。現地調査により、商店街通りにある45店舗のうち、開店しているお店は10店舗であり、閉店率は77.8%である(図1)。

しかし土崎港中央通り商店街の周辺には五十嵐記念病院、土崎病院、スーパーマーケット、及び複数の薬局があるため、高齢者が立ち寄りやすい場所ともなっている。このことから本自主研究では、高齢者に優しい街を活性化の目標として調査し、最初にお年寄りを

ターゲットとしたフリマーケットを開催することを提案する。



写真1 40年前の商店街



写真2 現在の商店街の様子



図1 土崎港中央通り商店街の開店状況

1-3 調査方法

本自主研究は、現地調査、聞き取り調査およびアンケート調査を用いて行った(表1)。高齢者にやさしいまちづくりの先進事例である島根県松江市の天神町商店街の天神町商店街理事長への聞き取り調査も実施した。

表1 調査方法と目的について

調査方法	実施期間	対象地	目的
現地調査	人通り調査	2023.7.21(金) 秋田市土崎	土崎港曳山まつりの時と普段の様子を比較するため
		2023.10.28(土)~29(日) 島根県松江市	高齢者に優しいまちづくりが行われている場所の祭りを見学し、知見を得るため
	聞き取り調査	2023.10.28(土) 島根県松江市	高齢者に優しい街はどのように行われたのかを知るため
アンケート調査	実施期間	アンケート設置場所	目的
	2024.2.19(月)~3.8(金)	ナイス土崎店 きざらぎ薬局 すずらん薬局 すばる薬局	土崎地域を高齢者にやさしい町にするためのイベント開催について、地域の方々の声を聞くため

2. 島根県松江市天神町商店街

インターネットを利用した事例収集した結果、お年寄りをターゲットにした商店街（フリーマーケット）は東京の巣鴨商店街および島根県松江市の天神町商店街の二つがあることが把握できた。今回は秋田市と同規模の地方都市島根県松江市を現地調査の対象とした。

2-1 松江市天神町商店街と天神市の概要

天神町商店街は島根県松江市に位置し、白湯天満宮の門前町として賑わっていた。地域内の病院が移転したことや、大型ショッピングセンターができたことにより、空き店舗も徐々に増え高齢化が進んでいた。

1990年、松江市が高齢者の住みやすい地区というコンセプトを掲げ、市・商工会、商店街関係者、市民による推進体制を作り、高齢者をターゲットにし、毎月25日に天神町商店街を歩行者天国にして「天神市」を開催することになった。コロナ禍の中に開催中止となったが、昨年より再開した。



写真3 高齢者が商店街を楽しむ様子

2-2 天神市の開催の工夫

現地調査では、お年寄りをターゲットにした「市」を開催する工夫について松江市天神町商店街理事長の中村氏へ聞き取り調査を行った。ポイントは以下の5点にまとめる。

ポイント1：歩行者天国にする。

歩行者天国にすることで安全に、円滑に買い物を楽しむことができる。

ポイント2：交流の場を設ける。

買い物以外にお年寄りが集いお話できることも楽しみの一つであることの認識が重要である。

ポイント3：商店街店舗の出店を確保する。

商店街にある店舗が商品を出し、干物や、花屋、古くから続くお茶屋、和菓子屋も集積することで県

外や海外からの観光客が体験できるコースとしても人気がある。

ポイント4：覚えやすい開催日にする。

25日は天神様の縁日であり、そもそもお年寄りに対して親しみのある日付である。お年寄りが覚えやすいことを考慮し、開催日は曜日でなく、毎月の25日にした。

ポイント5：信仰の対象を新設

天神市の推進組織は東京・巣鴨の視察からお年寄りには信仰の対象が必要だと把握した。商店街近くの白湯天満宮では学問の神様である菅原道真公が祀られている。そこで学問の神様→頭が良い→ボケ防止の神様の発想から新しい信仰として菅原道真公とは別に「おかげ天神」を祀ることにした。

2-3 天神市開催の波及効果

天神市は、来場者数の増加とともに、出店者の多様化も見られた。来場者はお年寄りに限らず、子育て世帯や若者も増えてきた。2023年、全世代が楽しめる「まつえ土曜夜市」も50年ぶりに復活開催された。さらに、商店街に老朽化したアーケードをバリアフリー化に改修し、商店街の近くに高齢者向け優良賃貸住宅も建設された。

3. 土崎地域におけるアンケート調査

土崎港中央通り商店街を活性化に対する住民意識を把握するため、土崎地域の住民へアンケート調査を実施した。アンケートはナイス土崎店、きさらぎ薬局、すずらん薬局土崎店、すばる薬局の4か所に設置し、2024年2月19日（月）～3月8日（金）まで調査を行った。今回のアンケート調査は34部を回収し、回収率は34%であった。

質問内容は商店街周辺の利用状況、土崎地域の現状に対する認識、お年寄りをターゲットとするフリーマーケットの開催について質問した。アンケート結果は以下の通りである

3-1 回答者属性（図2）

回答者の高齢者比率は53%（18名）であるが、多様な年代層の回答者もいた。



図2 回答者の年齢（n=34）

3-2 商店街周辺にくる頻度および利用目的

買い物、診察の目的で半分以上が週に1回程度に商店街の周辺地域を利用しているが、商店街の店舗の利用者が7人の20.6%に止まった。(図3-5)

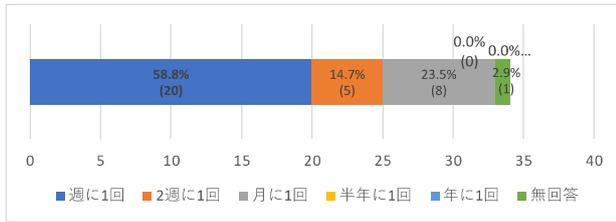


図3 土崎地域にくる頻度 (n=34)

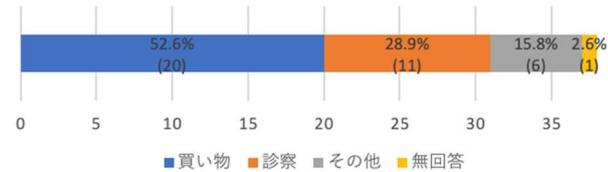


図4 土崎地域にくる目的 (n=34、複数回答可)

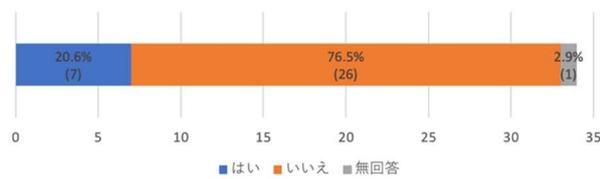


図5 商店街のお店の利用 (n=34)

3-3 商店街周辺にくる際の交通手段 (図6)

自家用車、徒歩の利用者が86.%であり、公共交通機関をほとんど利用していない事が分かる。電車の利用者が0人のことから遠くからの利用者は少ないと推測した。

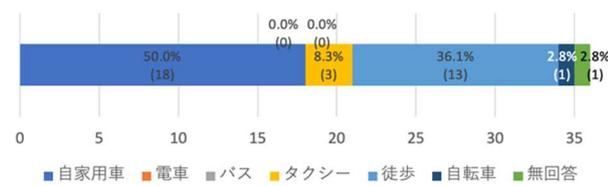


図6 交通手段 (n=34 複数回答可)

3-4 土崎地域の現状に対する認識 (図7, 8)

土崎地域は優しい街だと感じていない人がほとんどであり、71.9%を示す。こういった判断の理由は、お年寄りが楽しめる施設が少ない、公共交通の不便などが挙げられ、特に高齢者が交流しやすい施設やバスを安い値段で利用できるなどの工夫が必要だと感じる。

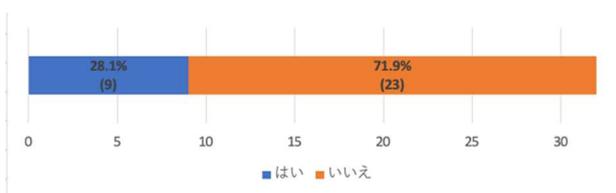


図7 土崎地域は高齢者に優しいまちと思うか (n=32)

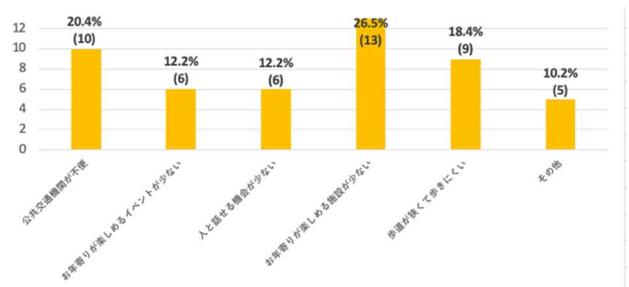


図8 高齢者に優しくないと思った理由 (n=34 複数回答可)

3-5 お年寄りをターゲットにするフリーマーケットの開催について (図9-12)

・開催頻度:

頻度として月に1,2回と2ヶ月に1回が多かった(55.6%)。地域の人達も交流や楽しめるイベントに対して積極的に興味を持っていることが分かった。

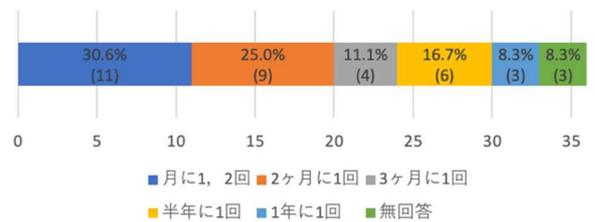


図9 開催して欲しい頻度 (n=34 複数回答可)

・販売して欲しい商品

食品や食べ歩きできるものが特に欲しいという事が分かるが、商品の種類の多様性も重視すべきだと考えられる。

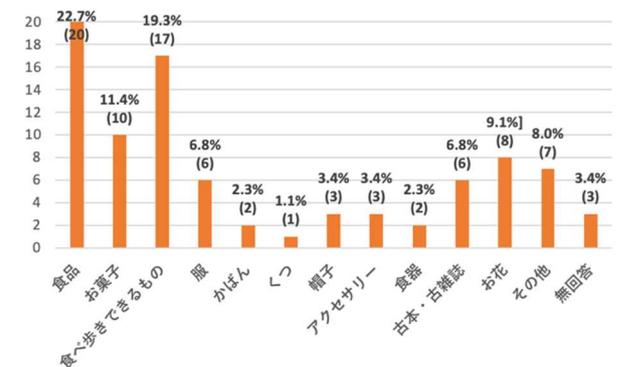


図10 販売して欲しい商品 (n=34 複数回答可)

・その他の必要性

交流できる施設の設置が圧倒的に多かったことが分かった。これは買い物のみの外出となっている

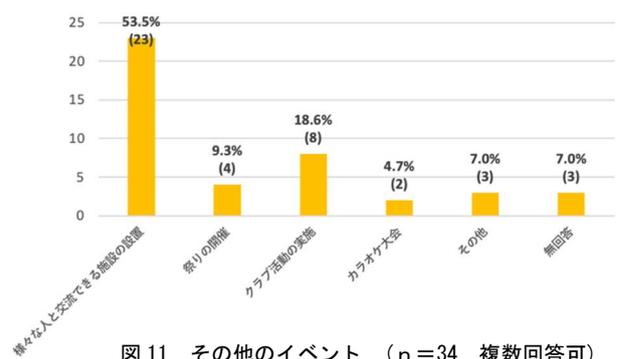


図11 その他のイベント (n=34 複数回答可)

高齢者の声がしっかり反映されていると感じた。

・フリーマーケットの提案に対する関心度合い

4が一番多く、興味度の高い4と5で半分以上(61.7%)の回答となっている。地域住民が本提案に対してとても興味を持っていると言える。

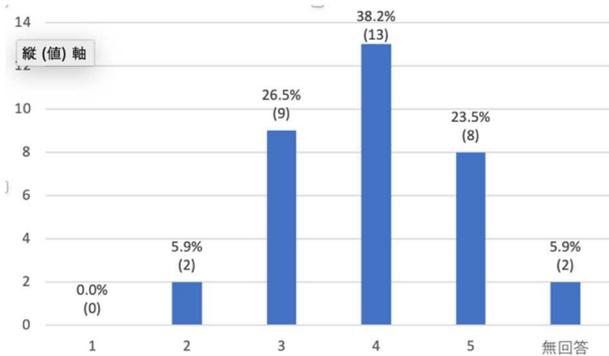


図 12 提案に対する関心度合い (n=34)

4. お年寄りをターゲットにするフリーマーケットの開催に関する実施案

以上の調査から、土崎地域の歴史と地域資源を最大限に考慮した上で、土崎港中央通り商店街で高齢者に向けたフリーマーケットの実施案を以下の通りで提案する。

・開催日

春：4月20日、夏：7月19日、秋：10月20日

お年寄りが覚えやすいように、土崎港曳山祭りの開催日の7月20日～21日と合わせて「20日」を選んだ。春、夏、秋に1回ずつの開催とし、7月は曳山祭りの前夜祭として19日にする。

・歩行者天国の場所と時間

場所：土崎港中央通り商店街(図1に参照)

時間：10:00 から 17:00

・駐車場

曳山祭りの際に使われているセリオン(道の駅あきた港)、秋田湊駅、または土日開催のときは土崎小中学校の駐輪場を利用する。

・出店者

商店街のお店：

ラーメン白樺：ラーメンの露店販売、外で食べられるスペースを店近くに配置。

千田精肉店：フリーマーケット限定のコロッケのような食べ歩きできるものを販売してもらう。

岩間洋服店：服の露店販売

靴のニューマルサ：靴の露店販売

カメラの明光堂：家族、カップル、友達などがプロ

の人にその場で撮ってもらい写真に現像してもらえる写真販売など。

また近くのスーパーマーケット、コンビニエンスストアにも協力してジュース、おにぎり、パンなどを出店してもらう。郊外のキッチンカーなども募集する。

・新しい信仰の設置

商店街近くの土崎神明社では天照大神が主祭神となっている。健康にご利益があることから長寿の神様を新たな信仰として祀る。今回は、新しい信仰を「健港様」、健康と土崎の正式名称土崎港から引用して健康の神様とする。お年寄りが「土崎神明社へ参拝する」→「帰りに商店街に寄り買い物をする」の流れを作る。

・お年寄りが集まれる場所の設置

場所は現在シャッターが下りている場所やリフォームした空き家にする。

・商品券の発行

お年寄り限定で使えるようにすることで、多くのお年寄りに来てもらう。

・地域の特色を表すイベント「曳山作り」の当時開催

土崎港曳山祭りの曳山は、毎年新しく作れることから、フリーマーケットに参加する多くのお客さんに曳山作りに関与してもらうのを提案する。1年間をかけて曳山のデザインアイデアを募集して投票してもらい一番投票の多かったアイデアを次の年の曳山祭りの広告、パンフレットに大きく掲載する。また選ばれた方に商店街で利用できる商品券や図書カードといった商品を贈呈する。開催場は現在シャッターが下りている場所やリフォームした空き家にする。

5. まとめと今後の課題

土崎地域の商店街を活性化するため、高齢者をターゲットとしたフリーマーケットの開催を提案した。病院のついでに商店街へ行くように「次いで目的」で商店街に来てもらい、商店街の活気を取り戻すことが期待できる。さらに歩道の整備等のインフラ整備の改善への波及効果も期待できる。実際にイベントを行う際に、行政、商店街、地域住民はどのように連携していくか今後の課題として検討する必要がある。